



第3回青函地域経済活性化フォーラム 意見交換会 提出資料

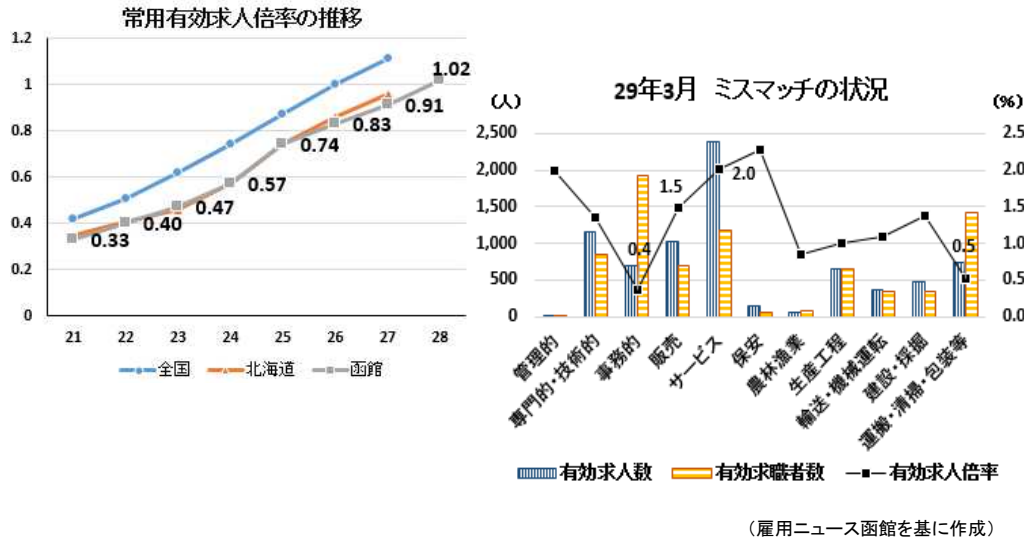
～道南地域における現状と課題～

1. 雇用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
2. 主力産業
 - ① 水産(漁業、水産加工)・・・・・・・・ P2～3
 - ② 観光・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

平成29年6月1日
北海道財務局・函館財務事務所

1. 雇用

○有効求人倍率は順調に回復し、3月としては過去最高の1.02になっているものの、「求職と求人とのミスマッチ」は深刻



○人手不足！企業の窮状「生の声」

・勤務時間が不規則で休日勤務もあるため定着率が悪く、毎年新規採用の3割は辞める。(宿泊)

・他社の引き抜きもある。戦力になった社員に辞められるのは痛手。(宿泊)

・新幹線開業で宿泊者数が増加し、調理人を募集したが応募がない。現在は、系列ホテルからの派遣で対応している。(宿泊)

・新店舗オープンのため販売員を募集しているが、接客業は敬遠されており、通勤エリアを広げたり、時給を引き上げたものの応募がない。(洋菓子製造・販売)

・契約社員の運転手は、一年を通して安定した雇用が確保できないため敬遠される。(貸切バス)

・中国人の就労実習生に働いてもらっているが、今後、更に人数を増やす予定。(水産加工)

・募集に応募なし→既存従業員の残業で対応→経費の増加・離職→利益低下→受注調整の悪循環に陥っている。(衛生)

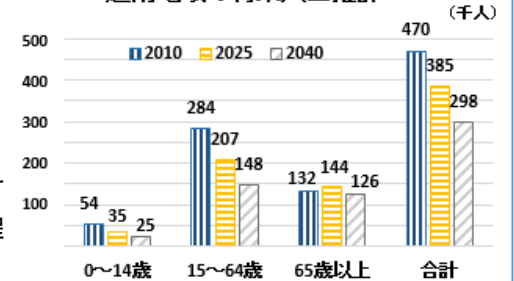
・パートは高齢者が多く、長時間勤務が難しいため短時間のシフトにしている。人数確保のために常時募集活動をしている。(飲食)

○今後、労働力人口は更に減少

○人口推計

・国立社会保障・人口問題研究所が公表した「地域別将来人口推計(平成25年3月推計)」によれば、道南地域の人口は、今後、全国に比べ急速に減少し、2040(H52)年には298千人程度(2010(H22)年比63%程度)まで減少すると予測されている。

道南地域の将来人口推計



また、いわゆる生産年齢人口(15～64歳)の減少はより多く148千人(同52%)程度まで減少する。そのような中で、65歳以上の人口は概ね同程度の126千人(同95%)となっている。

○高校2年生相当→大卒社会人1年生相当の人口移動

・高校2年生時に函館に在住した人数の概ね20%程度が就職後には函館から転出している。

年齢	21.4末	22.4末	23.4末	24.4末	25.4末	26.4末	27.4末	28.4末	29.4末
0歳	1,836	1,792	1,769	1,743	1,665	1,614	1,598	1,596	1,393
17歳	2,671	2,796	2,632	2,641	2,515	2,516	2,464	2,348	2,360
18歳		2,388	2,429	2,348	2,360	2,173	2,172	2,120	2,066
19歳			2,321	2,378	2,299	2,302	2,138	2,116	2,151
20歳				2,226	2,335	2,221	2,199	2,078	2,014
21歳					2,257	2,353	2,186	2,219	2,061
22歳						2,121	2,048	2,052	2,128
23歳							2,093	2,171	2,100
							▲0.8	▲625	▲332
							▲22%	▲22%	▲20%

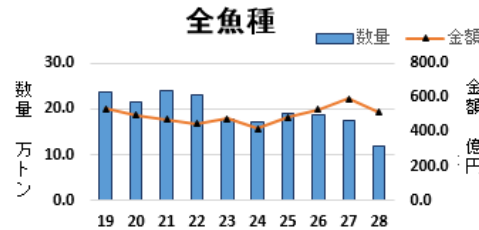
(函館市公表の住民基本台帳人口を基に作成)

2. 水産(漁業)

○平成28年の渡島・檜山管内の漁獲高は、過去10年間で最低

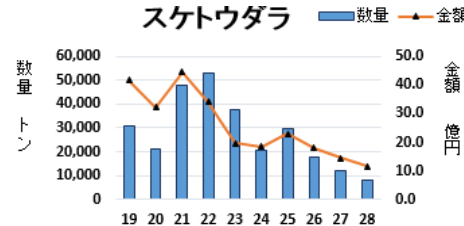
全魚種

28年の漁業生産高は、数量で11万8千トン(前年17万5千トン)、対前年▲33%と大幅な減少となり、過去10年間で最低の水準となった。一方、金額は単価が上がった魚種もあることから、515億円(前年592億円)、対前年▲13%にとどまった。



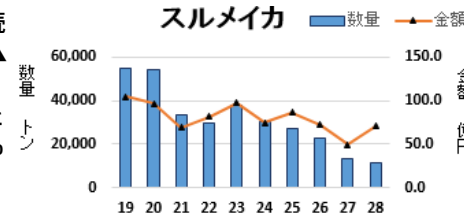
スケトウダラ

28年のスケトウダラ生産高は、数量で8,080トン(前年11,815トン)、対前年▲32%と大幅な減少となり、過去10年間で最低の水準となった。金額では、12億円(前年14億円)、対前年▲20%となった。



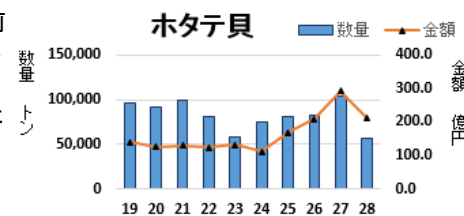
スルメイカ

28年のスルメイカ生産高は、23年以降減少を続け、数量で11,700トン(前年13,123トン)、対前年▲11%となり、過去10年間で最低の水準となった。金額では、単価が上昇(375円→602円/キロ)したことにより、70億円(前年49億円)、対前年+43%となっているが、過去10年間では3番目に低い金額となった。



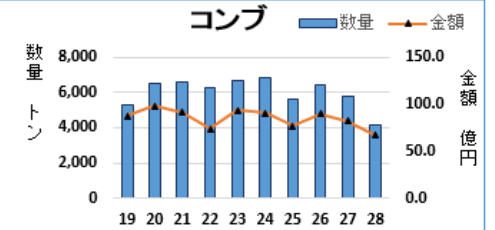
ホタテ貝

28年のホタテ貝生産高は、数量で56,603トン(前年103,887トン)、対前年▲46%となり、過去10年間で最低の水準となった。金額では、単価が上昇(282円→373円/キロ)したことにより、211億円(前年293億円)、対前年▲28%にとどまった。



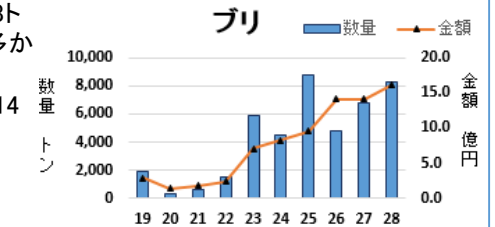
コンブ

28年のコンブ生産高は、数量で4,178トン(前年5,810トン、対前年▲28%)、金額においても67億円(前年82億円、対前年▲18%)となり、生産高・金額ともに過去10年間で最低の水準となった。



ブリ

28年のブリ生産高は、数量で8,258トン(前年6,808トン)、対前年+21%となり、過去10年間で2番目に多かった。金額においても16億円(前年14億円)、対前年+14%となり、過去10年間で最高水準となった。



(「北海道水産現勢」(北海道水産林務部)、渡島総合振興局・檜山振興局公表の28年漁獲高(概数)などを基に作成)

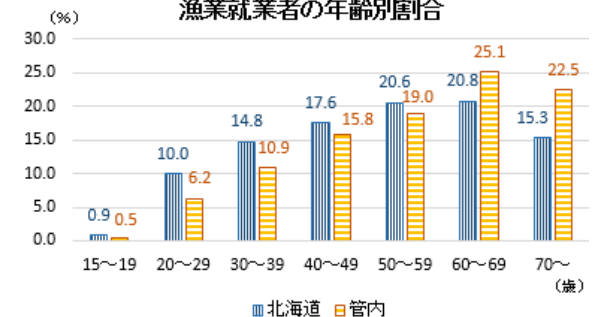
○漁業就業者の高齢化

・ 渡島・檜山管内での漁業就業者は7,152名であり、年齢別では60歳代が1/4を占める。年齢別割合を北海道全体と比較しても若い世代の割合が低く、60歳以上の割合が高くなっている。

漁業就業者数

年齢	単位:人	
	北海道	管内
15~19	264	38
20~29	2,962	445
30~39	4,409	776
40~49	5,213	1,131
50~59	6,106	1,360
60~69	6,166	1,792
70~	4,532	1,610
計	29,652	7,152

漁業就業者の年齢別割合

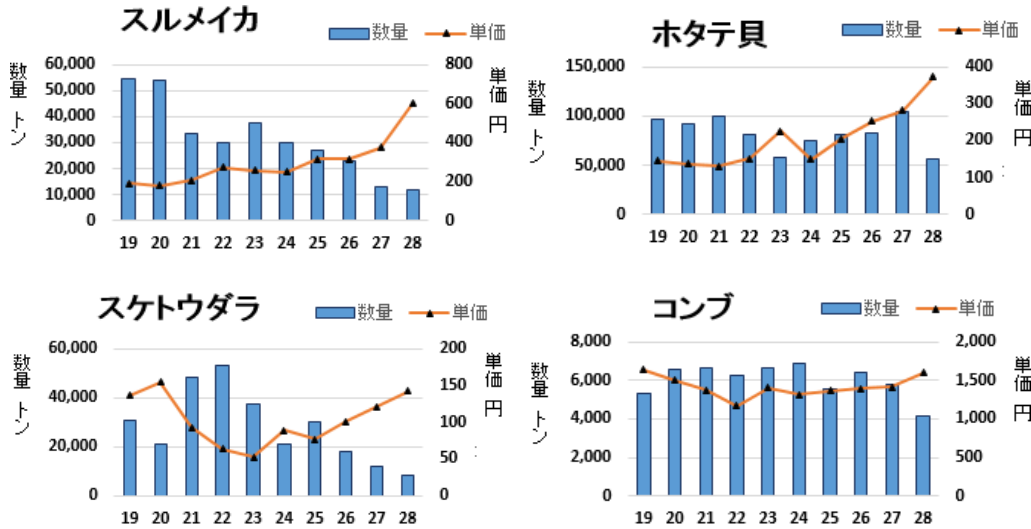


(2013年漁業センサス統計を基に作成)

2. 水産(水産加工業)

○原材料価格が高騰

・28年のスルメイカの販売単価は602円/キロ(前年375円/キロ、+61%)と高騰した。

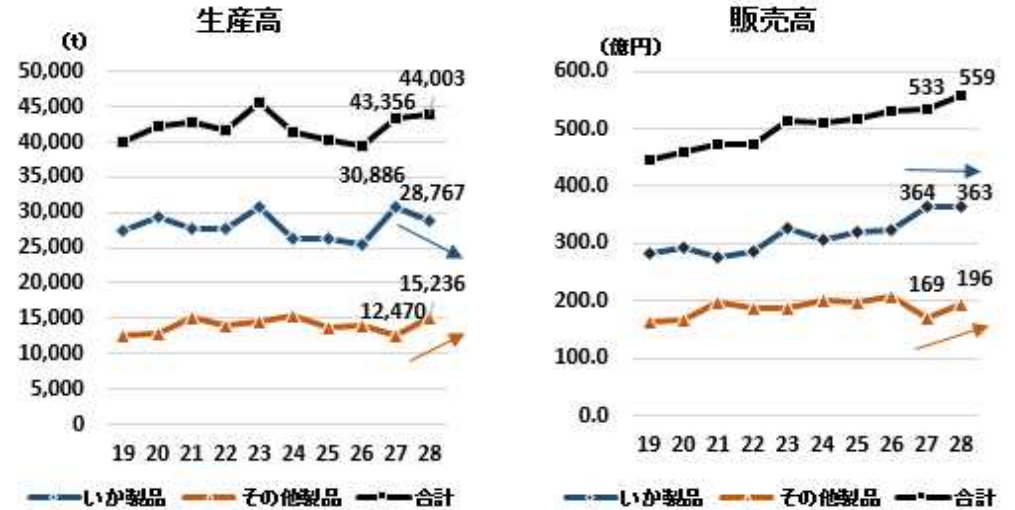


(「北海道水産現勢」(北海道水産林務部)、渡島総合振興局・檜山振興局公表の28年漁獲高(概数)などを基に作成)

○原材料の影響を受ける珍味加工製造業

○「いか製品」の製造量が減少

・28年は、いかの不漁の影響を受けて「いか製品」の製造数量が減少した。一方で、たこ・たらこなどを使った製品の製造にシフトして総生産高は前年を上回っている。



(函館特産食品工業協同組合データを基に作成)

○原材料不足！企業の窮状「生の声」

- ・イカが不漁のため、原材料の需要に対する供給が半分以下になっている。
- ・価格は、国内産で昨年の2倍以上、海外産でも1.5倍程度になっている。
- ・前期は一部安い海外産で代替したが、今期は塩辛の生産を停止している。

- ・イカが不漁のため価格が高騰しているため、昨年秋以降、値上げを実施した。このため、売上が減少し、生産も抑えている。

- ・ホタテ、イクラ、コンブも不漁による品不足から、価格が上昇している。

- ・国内産のイカは、今年の夏場までの製造分は確保しているものの、今後の調達の見途がたっていないことから、今後の不漁の場合には海外産で代替する可能性がある。
- ・松前漬けに使用するイカ以外の原材料(シシャモの卵、ホタテ)も、不漁により価格が上昇している。

- ・不漁による漁獲量の減少から原材料費があがっているが、販売価格へ十分に転嫁できておらず厳しい状況である。



3. 観光

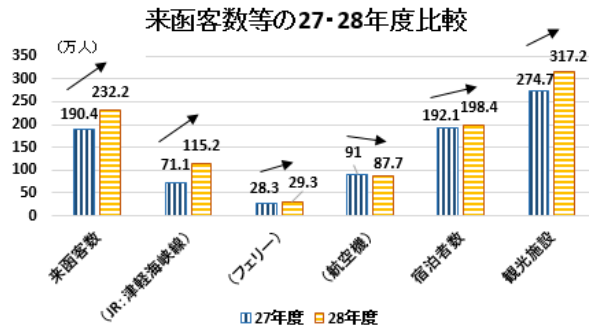
○新幹線利用は順調に推移

- 28年3月に開業した北海道新幹線の開業後1年間の利用者数は229万人(上り・下り計)であり、前年同期と比較して64%増と大幅な伸びとなった。
- また、開業初年度である平成28年度の来函客数は、フェリー、航空機にも相乗効果が認められ、232万人、前年比+22%と大幅に増加し、函館市内の宿泊施設や観光施設利用者の増加にも寄与した。

北海道新幹線開業後の利用状況

	開業後1年	開業前1年	前年同期比(%)
利用者数(万人)	229	140	64.0
一日平均(人)	6,300	3,800	

JR北海道発表資料を基に作成



(函館財務事務所 道南経済レポートを基に作成)

○観光入込客は道南に集中、全道へ波及せず

- 全道179市町村における平成28年度上期の観光入込客数の総数(延べ人数)は、8,997万人で、前年同期と比較して0.7%減少したが、北海道新幹線の開業効果を大きく受けた道南圏が唯一、16.2%と大きく増加している。
- なお、他の圏域が軒並み減少したのは、8~9月にかけて発生した台風等による影響があったものと考えられる。

圏域別観光入込客数

	H27.4~9	H28.4~9	増△減	伸率(%)
道央	4,839.2	4,806.7	▲32.5	▲0.7
道南	781.2	908.1	▲126.9	▲16.2
道北	1,557.0	15,062.0	▲51.8	▲3.3
オホーツク	590.0	547.4	▲42.3	▲7.2
十勝	693.1	630.9	▲62.3	▲9.0
釧路・根室	600.3	598.8	▲1.5	▲0.3
合計	9,060.5	8,997.0	▲63.5	▲0.7

(北海道経済部観光局資料を基に作成)

○道南でも函館に集中

- 道南圏の各市町別の観光入込客は、多く観光地を有する函館市、道の駅「みそぎの里きこない」、「道の駅しかべ間欠泉公園」をオープンした木古内町や鹿部町、北海道新幹線の新函館北斗駅が所在する北斗市等が入込客数を伸ばしている、一方で、他の町は前年並みという状況にあり、北海道新幹線の開業効果は道南地域全般に亘っているわけではない。

道南圏の各市町別観光入込客数

	H27.4~9	H28.4~9	増△減	伸率(%)
函館市	321.1	366.5	45.4	14.1
北斗市	76.7	91.9	15.2	19.9
松前町	35.1	36.4	1.3	3.6
福島町	5.3	5.7	0.4	7.8
知内町	10.6	11.5	0.9	8.8
木古内町	4.7	42.4	37.7	805.1
七飯町	108.5	112.6	4.1	3.8
鹿部町	14.5	34.7	20.2	139.8
森町	54.8	51.6	▲3.2	▲5.9
八雲町	40.7	41.8	1.1	2.8
長万部町	31.1	31.5	0.4	1.2
江差町	31.3	32.6	1.4	4.3
上ノ国町	8.2	8.2	0.0	0.4
厚沢部町	10.1	10.7	0.6	5.7
乙部町	6.9	8.0	1.1	16.0
奥尻町	2.1	2.1	▲0.0	▲1.4
今金町	2.5	2.7	0.2	8.9
せたな町	17.2	17.3	0.1	0.6
合計	781.2	908.1	1,269.0	16.2

(北海道経済部観光局資料を基に作成)

○冬場には課題

- 来函客数については、29年1-3期についても、対前年1-3期についても、対前年比4.4%増を確保したものの、冬場の集客確保には課題が多い。



(函館財務事務所 道南経済レポートより)